

地域戦略人材塾 第8回「多様な働き方の促進による地域活性化と自治体の役割」  
(講師：石山恒貴先生)

今回の Q&A は以下の一件です。

Q1

・神戸市のように公務員でも一部の条件下での副業の許可を出している自治体があります。今後民間での多様な働き方がますます浸透していくに合わせて、公務員側の働き方も変わっていくと思いますか？

A1 (石山恒貴先生より)

・おっしゃるとおり神戸市や生駒市のように副業について、取り組みは始めている事例もでており、公務員においても多様な働き方は増加していくものと考えております。

副業自体も非営利を対象とするものは増加していくと思いますが、おっしゃるとおり、民間企業への出向など、様々な「越境」の仕組みの展開が、今後の動きにおいて重要だと考えます。

皆さまのご感想、コメントなどを以下に取りまとめましたので、ご覧ください。

- ・関係人口を引き込むための工夫を凝らすことが大切だと思った。
- ・外部人材の重要性と、受け入れる注意点、ポイントなどのメリット・デメリットを詳しく知ることが出来た。
- ・外部人材の活用で上手くいかなかった事例があり、人材受け入れにクローズになっている。まず、オープンにする意識改革から始めなければならないと感じた。
- ・外部からの人材取り込みはもちろんだが、職員を外に出す(農業の手伝いや、消防団など)という取り組みをしている自治体もあり、参考になった。
- ・システムなどに強い人材を呼び込み、業務の効率化を図れるのではと考えた。
- ・多様な働き方による外部人材を効果的に活用するには、自治体側での課題が多くあること。多様な働き方ができない公務員と民間とで、考え方などの差がますます広がっていくのではないかと感じた。
- ・多様な働き方とどのように関わっていくかを改めて自治体側が考えていく必要がある。受け入れる場合は、ミスマッチがでないように、なぜ外部人材を使うのか、どのように関わってもらうかをしっかり考えて準備することが大事だと感じた。
- ・個人的には、副業までは難しくても民間企業への出向等、講義の中でもあった「越境」で

きる仕組みができれば、おのずと外部人材を受け入れる体制やマインドが行政側にもできやすいのかなと感じました。

- われわれで言う副業は、職員が本業以外に報酬を得る仕事を考えるもので捉えていますが、外部の方が行政に入って副業をするという考え方もあるのかという気づきになりました。行政が関与するには明確なビジョンとそれに伴う予算確保が必要になるため、既に取り入れている自治体の状況を参考にさせていただきたいです。ただ、失敗する（うまく人材を使えない、成果が見えない）リスクもあるので躊躇するところかと思えます。
- 福山市のような民間のプロ人材を兼業、副業で募集して成功している事例が知れたことは初めて知って良かった。役場組織が民間の人材とふれることは非常に大事なことだと学んだ。
- 今までのホームページの表示が限界に来ているので、まずはこの取り組みかを導入して行きたい。
- 時代が変わると、その時代に乘れなかった会社は潰れるが、時代に乘れなくても悲しいかな役場は潰れないが、それも限界が来ていると思うので、先端の取組みを学べるこの人材塾は非常に勉強になります。
- 外部人材の活用に当たり、受け入れ側のマインドセットの必要性はもちろんのこと、受け入れられる側のマインドセットも必要なのでは？と感じた。  
「上手くいった例」の共有はとても有意義なものであり積極的に行う必要性があると同時に、「上手くいかなかった事例」の収集と蓄積、共有が今後の外部人材の活用や、その先の地域活性化には必要不可欠であると思う。
- 議会期間のためしっかり聞くことができず、残念であった
- 地方公務員にとって、一般企業等との交流は成長につながる大きなチャンスであるため、自治体として交流の機会を増やすべきと感じました。
- 「外部人材の活用」と聞くとどうしても役所に民間企業の人材を受け入れることばかり考えてしまい、市内企業が副業人材を受け入れる体制づくりに役所がどのように関わっていくかという視点が欠けていたと思った。
- まずは役所が外部人材を受け入れる姿勢を見せることが重要だと思うので、福山市の事例は大変参考になった。
- 他の市町村の取り組みを理解する事ができました。
- 課題の解決策に民間企業と協同して解決するなど新たな方法を知ることができ、実際に活

用も考えたいと思いました。

お忙しい中、皆さまからたくさんのご感想を頂戴いたしました。

ありがとうございました。

地域戦略人材塾 事務局